



図1 漢和辞典における字解例
(切り取れば漢和辞典に加えてお使い頂けます)

ばよいわけです。読みとしては、ジツゲンジツ、ジツブツタイ、というように「ジツ」と読めば宜しいかと思ます。

VR学会は、全く新しい概念を扱う学会として発足いたしました。ですから、単に友好の士が集まって発表し合う場であるだけではなく、新しい概念が正しく日本の社会に根ざすための水先案内人の役目を果たすのもその責務と思っております。

第10回記念大会において、これからのVR10年ということで、新しい漢字の提案とその普及の必要性について述べさせていただきました。

■ 幹事より

川上直樹

幹事 (東京大学)

稲見昌彦

幹事 (電気通信大学)

秋の息吹が感じられつつあるさる9月27日から29日にかけて、日本バーチャルリアリティ学会第10回記念大会が東京大学本郷キャンパスで開催された。天候にも恵まれ、参加者は最終的に402名に達し大変な盛況のうち幕を閉じることができた。まずは、参加された各位に感謝したいと思う。

平成8年5月27日に日本バーチャルリアリティ学会が設立され、同年10月8、9日に第1回大会が国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されてから早

くも記念すべき10回目の大会を迎えるに至った。

本大会は第10回記念大会ということで岩井俊雄氏(東京大学)、小川克彦氏(NTTサイバーソリューション研究所)らによる2件の特別講演に加え、都立写真美術館、印刷博物館への文化ツアー、河口洋一郎氏による懇親会でのインスタレーション等イベントも多数企画された。特筆すべきは特別講演をいただいた岩井氏、小川氏に加え小山博史氏(東京大学)、関根千佳氏(ユーディット)、武田博直氏(セガ)、野村淳二氏(松下電工)、廣瀬通孝氏(東京大学)ら工学、医学、芸術、産業の第一線で活躍している面々によるパネルディスカッション「VR これまでの10年、これからの10年」である。聴衆も日本でのバーチャルリアリティ研究の歴史を走馬燈のように振り返ることができたのではなかろうか。



パネルディスカッション「VR これまでの10年、これからの10年」
* 口絵にカラー版掲載

バーチャルリアリティの研究も10年の節目を向かえ、より実社会に成果を還元する、情報化社会に於ける重要な基盤技術として認識されつつあるのではないだろうか。学会設立から10年が経過し、バーチャルリアリティというキーワードの下に結集した研究者の集う大会として本大会の意義が再確認されたのではないだろうか。



懇親会で進行を務める川上幹事(右側)と稲見幹事(左側)